



学習教材「ラファエック」を通じた自立支援事業
2020年度事業進捗報告書



2020年9月

公益財団法人ケア・インターナショナル ジャパン

はじめに

この年次報告書は、2019年7月1日から2020年6月30日までの、ケア・インターナショナル東ティモール(CITL)が管理及び実施する、学習教材「ラファエック」を通じた自立支援事業をまとめたものです。

学習雑誌「ラファエック」は、都心から離れ、困難な状況にある地域の全ての学校、生徒、そしてコミュニティに届いている唯一の読み物で、全国の生徒、教師、コミュニティにおける重要な補助教材となっています。印刷物に加えて、ラファエックの公式サイトにはデジタル版も公開されています(ラファエック公式 WEB サイト : <http://www.lafaek.tl/>)。

本プロジェクトでは、教育に役立つ学習雑誌を生徒、教師、親向けに提供しています。それらは、子ども用ラファエック二種(幼稚園、小学1・2年生用の「Lafaek Ki'ik」及び、小学3・4年生用の「Lafaek Prima」)、教師用ラファエック(「Lafaek ba Manorin」)、そして農村地域の成人用ラファエック(「Lafaek ba Comunidade」)です。

各学習雑誌は、それぞれ年3回(3/2019版、1/2020版、2/2020版)制作されました。この内、3/2019版と1/2020版はスケジュール通り配布されましたが、2/2020版は新型コロナウイルスの発生と、2020年3月から6月にかけての非常事態宣言の影響により、配布が遅れました。学校の始業に合わせ、遅れた配布を21年度の第1四半期半ば(2021年8月~9月)までに終わらせる予定です。

今年度は、合計1,241人のインタビュー(女性691人、男性550人)を実施しました。これは13県の272の小学校、幼稚園における102回の授業視察も含まれます。

第1四半期の初めと第2四半期の終わりには、チームビルディング及び振り返りの会合が行われました。どちらも、全チームメンバーが、プロジェクト実施について振り返ることを目標としたもので、主に前年のプロジェクト実施から学んだ教訓や、改善点とその解決案、チーム間の共同プランの調整などがその内容でした。

雑誌の制作と配布の活動に加え、ラファエック WEB サイトとラファエック Facebook ページの存在を一層大きくしてきました。これらのオンライン・プラットフォームは、東ティモールの観光地振興、農村地域の成人用ラファエックにも掲載している料理レシピの共有、ジェンダー平等の促進、外部組織との協働投稿(スポンサーシップ)、そして2月からの新型コロナウイルス感染関連など、情報の範囲をますます広めています。オンライン・プラットフォームは、スポンサーとの契約によってラファエック事業の収入を増やし、プロジェクトの長期持続可能性の担保に役立っています。今年度末の数値では、

ラファエック Facebook ページは 131,000 人のフォロワー（東ティモール国内の FB ページ中第 4 位）が存在し、ラファエック WEB サイトは毎月平均 667 回閲覧されています。過去 12 ヶ月に、ラファエック Facebook ページは 157 回の投稿をし、1,339,956 人にリーチし、167,765 人のエンゲージメント（共有、いいね、コメント）を得ています。

2020 年の 2 月から 6 月は、保健省や WHO の情報に基づいた、新型コロナウイルス感染予防関連の情報を共有するため、27 回の投稿をしました。この 27 回の投稿は、363,679 人にリーチし、38,928 人のエンゲージメント（共有、いいね、コメント）を獲得しました。

主要提言及び活動

報告期間ははじめに実施された Lafaek Learning Media (LLM) ベースライン・レポートの主要提言：

- **生徒に子ども用ラファエック（「Lafaek Ki'ik」、 「Lafaek Prima」）などの読み物を家に持ち帰るよう勧める**



学校でも家でも、本を読むことを奨励

ベースライン調査の結果は、家庭に読み物がない生徒の読み書きの能力スコアが、全体的に低いことを示しています。多くの生徒が、学習雑誌「ラファエック」を学校に置いたままにしており、子ども達の読み物へのアクセス、読書時間を限られたものにしていました。

配布を担うフィールドオフィサーは、国内 1,579 の幼稚園と小学校に対し、学習雑誌が伝えたい大事なメッセージを強調しながら、生徒達

に直接配布しています。教室に入ってまず、学習雑誌の内容を、生徒に簡単に説明し、学習雑誌を家に持ち帰り、家で親や兄弟姉妹と一緒に読むことを勧めています。またフィールドオフィサーは、教師にも、学習雑誌を補助教材として授業で使うことを勧めると共に、教師から生徒に、学習雑誌を放課後家庭に持ち帰り、読ませること促しています。

この期間、モニタリング活動で集められたデータによると、幼稚園児～1・2年生の 97.1%は「Lafaek Ki'ik」を受け取り、3・4年生の 97.9%は「Lafaek Prima」を受け取りました。そして、全

生徒がこれらの雑誌を年間3回受け取ったことを確認しました。さらに、雑誌を受け取った95.7%の「Lafaek Ki'ik」の生徒と96.6%の「Lafaek Prima」の生徒が、学習雑誌を家に持ち帰ってよく読んでいと述べました。とくに97%の生徒が、学習雑誌「ラファエック」のおかげで学校がより楽しくなったと述べた点は重要です。

このプロジェクトは、学校をターゲットとして学習雑誌「ラファエック」の配布を続けています。モニタリング活動の結果によると、94%の親が成人用ラファエック（「Lafaek ba Comunidade」）を子どもから受け取り、その内93.7%は一年間で全3版を受け取りました。

この配布期間中、今まで成人用ラファエックを受け取り家族に持ち帰っていた5・6年生は、試験プロジェクトとして、CARE オーストラリアにサポートを受け、1年間「Lafaek Prima」の雑誌を受け取りました。5・6年生用の「Lafaek Prima」は、2020年1月に1/2020版を学校に配布し始め、2020年3月に配布を完了しました。第2版の2/2020版は、現在フィールドオフィサーによって配布されています。これにより、生徒の学習成果をより高いレベルでサポートすることができます。

● 子どもと読書をする親・兄弟のための「ウィン・ウィン」（双方に利益をもたらす）活動の促進

ベースライン調査では「読書を一緒にすることで、子どもの読み書きの能力と学習の発達を促すと共に、親の読み書きの能力、計算能力、読むことへの自信を向上させる。そして、「Lafaek Ki'ik」のシンプルな内容と絵の使用は、読み書きができない大人も、自分で読むことを練習し、自信をつける手助けになる」ことが分かっています。これは、自宅で読書する子どもや、誰かに本を読んでもらっている子どもは、家で読書をしない子どもよりも、読む能力が高いことを示しています。



子どもとラファエックを使い勉強する親

支援対象校で実施した、223人へのインタビュー調査では、88.3%の親が子どもと遊んでおり、65%が定期的に子どもと本を読んでいた。時々しか、または全く子どもと本を読まないと答えた親は、読まない理由として、主に料理、育児、家畜の餌やり、電気がない、他のことで忙しい、文字を読むことができない、という理由を挙げました。

インタビュー対象者の親のうち、86.5%は、学習雑誌「ラファエック」を読んでおり、2019年

度の81%と比べて増加しています。一方、51.1%が、配偶者もそれを読んだと答えており、2019年度の報告期間と比べ22%の減少を示しています。さらに、全体の65.9%の親が、自分の子どもが学習雑誌「ラファエック」を読んでいる、と答えました。

プロジェクトチームは次年度も、4種の学習雑誌「ラファエック」の効用を広く普及していきます。コミュニティダイアログや、学習雑誌のコンテンツなどを通して普及する他、学校の教師や、国、自治体レベルの会議、MOEYS（教育・青年・スポーツ省）とも連携します。

● 子どもの宿題を親が手助けするよう奨励



生徒が「Lafaek Kí'ik」を読む手助けをする
小学校の先生

モニタリング調査チームが、全国の対象校や地域を訪問し、親がどのように子どもの勉強をサポートし、学習を励ましているかについて、データ収集を行いました。

調査訪問中、インタビューに協力した223人の親には、4歳から12歳の628人の子どもがいました。この内98.2%の親は、子どもが学校に行くことは大事であることに同意し、前年の98.0%に比べ増加しました。また、親の97%は、子どもが学校に通っていると答えました。しかし、このインタビュー時に実際に学校に行っていたのは628人中

505人で、80%でした。残りの子どもたちが学校に行かなかった理由は、病気か、家で親の仕事の手伝いをしなければならないことでした。

子どもが学校に通うことが大事だと言った親に対し、どうすれば子どもが必ず学校に行くようにできるか尋ねました。親は主に、a) 学校に行く前に朝食を準備する、b) 読む、数えるなど、家庭で勉強のサポートをする、c) 学用品（ペン、本、食事）の購入をし、学校に必要なものを揃える、d) 家の手伝いを沢山頼むことをやめる、と答えました。しかし、子どもの送り迎えに言及した親はほとんどいませんでした。子ども達の62%（4歳から8歳の子ども約3分の2）は、学校と同じ村に住んでいないことを鑑みると、子どもの教育をさらに改善するには、学校の行き帰りを親がさらにサポートする必要があることが分かります。

成果物と進捗状況

● 農村地域の成人用ラファエック（「Lafaek ba Comunidade」）

農業、マイクロファイナンス、健康、栄養、女性の声、女性の経済的エンパワメント、工作や大工、テトゥン語及びポルトガル語の読み書き、算数に関する情報が掲載されている、24ページフルカラーの学習雑誌です。子どもの保護者、読み書きの能力が充分でない大人、その他脆弱な環境に置かれた人々を対象に年3回配布しています。



号	ターゲット数	印刷数	配布実績数	印刷と配布の差
3/2019	110,000	107,040	104,392	2,648
1/2020	110,000	106,050	105,900	150
2/2020	110,000	106,550	26,227	80,323 (7月13日現在)

・コミュニティダイアログの実施

ラファエックの内容を深く説明し、調理や工作などを共に実践するだけでなく、どんな情報が実用的で役に立ったか、分かりやすかったかなど、農村の人々と CARE のスタッフが意見交換をする場にもなっています。配布だけでは終わらず、ラファエックの内容を浸透させ、本から得た情報を人々が実践すること等を目指しています。

コミュニティダイアログは、年3回の「Lafaek ba Comunidade」配布に合わせて実施される活動で、東ティモール全13県内の村々で順に行っています。ラファエックプロジェクトのスタッフ、地域の学校関係者、村のリーダー達とともに、どの村が各ダイアログのホスト役を務めるかを決定しています。

コミュニティダイアログの内容は、農村地域の成人用ラファエックの内容のうち、興味関心の度合いや追加説明の必要性などに基づいて決めており、評価及びモニタリング活動と同時並行で内容選定を行います。人々の関心が高い内容として、農業の実践的手法やモノづくりなど、技術的なコンテンツが挙げられます。

一日を通して行われるダイアログの中で、農村地域の成人用ラファエックの内容を使ったデモセッションが重要な活動の一つです。このデモの内容は、事前にコミュニティの人々から得たフィードバックを基に構成されます。例えば、トマトソースの作り方、パパイヤジャムの作り方、タオルを使った花瓶の

作り方、オーガニック肥料とオーガニック殺虫剤の作り方などが、ラファエックチームにリクエストされてきました。この活動は、地域の人々が直接デモを見てその場で質問ができるため、より明確な知識を直接得られると、好評を得ています。

本年度は、予定された13回のうち、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けなかった、9回のコミュニティダイアログを実施しました。

● 教師用ラファエック（「Lafaek ba Manorin」）

国の教育カリキュラムや指導要綱に関連した教授法を紹介している他、同じ号の子ども用ラファエックに掲載されている、テトゥン語、ポルトガル語の読み書き、算数、自然科学、芸術、文化、スポーツ等の内容を解説しています。

16ページフルカラーで、幼稚園から小学6年生までの教師向けに年三回配布しています。

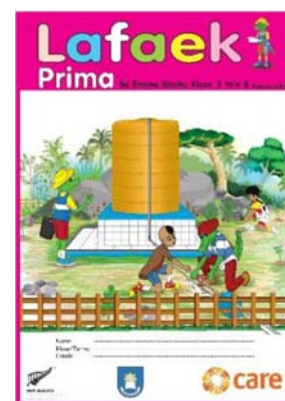


号	ターゲット数	印刷数	配布実績数	印刷と配布の差
3/2019	12,500	12,720	12,342	378
1/2020	12,500	12,850	12,372	478
2/2020	12,500	12,850	5,383	7,467 (7月13日現在)

● 小学3・4年生の子ども用ラファエック（「Lafaek Prima」）

「Lafaek Ki'ik」と同様、国の教育カリキュラムに沿った内容で制作しており、全国の1,173校の小学3、4年生向けに年三回配布しています。本学習雑誌は、主にニュージーランド政府の支援を受けており、2022年度末までの契約延長が決まっています。読み書きや算数に関する、スポンサーシップとの連携による内容も多く掲載しています。

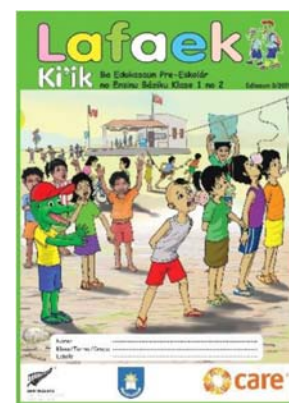
3/2020号は、国家緊急事態宣言により、学習雑誌内容の事前チェックを決められた対象校で行えませんでした。代替として、スタッフの居住地域において、小学校の生徒や教師の協力を得て実施しました。



号	ターゲット数	印刷数	配布実績数	印刷と配布の差
学習雑誌				
3/2019	85,000	80,160	74,206	5,954
1/2020	85,000	74,082	71,241	2,841
2/2020	85,000	74,200	29,391	44,809 (7月13日現在)
ポスター				
3/2019	2,700	2,650	2,570	80
1/2020	2,700	2,600	2,570	30
2/2020	2,700	2,500	1,818	682 (7月13日現在)

- 幼稚園、小学1・2年生の子ども用ラファエック（「Lafaek Ki'ik」）

全国の1579の幼稚園、小学1，2年生向けに年3回配布しています。本学習雑誌は、教育省とラファエックチームが密に連携してコンテンツを開発しています。学習雑誌の要点と、キャラクターの紹介を載せたA1サイズのポスターも配布しています。



号	ターゲット数	印刷数	配布実績数	印刷と配布の差
学習雑誌				
3/2019	120,000	110,193	109,197	996
1/2020	120,000	110,050	109,912	138
2/2020	120,000	113,050	57,407	55,643 (7月13日現在)
ポスター				
3/2019	4,650	2,603	2,603	0
1/2020	4,650	2,629	2,629	0
2/2020	4,650	2,629	1,073	1,556 (7月13日現在)

- ラファエックオンラインプラットフォーム

若年層への情報提供のために、スポンサーシップとの連携を含め、オンライン上でのコンテンツ開発及び発信を行っています。

・ラファエックFacebookページ

- 131,592人のフォロワーがおり、米国大使館、オーストラリア大使館、ニビオ・マガルハエス氏に次ぎ国内第4位です。
- 13~34歳をターゲットに情報発信を行っています。東ティモールでは、首都のディリに加え、各県庁所在地でも、インターネットへアクセスできる機会が増えています。
- 本年度、157回の投稿を実施したうち、121回はラファエックチームによる定期投稿で、20回はスポンサーとの連携による投稿でした。
- この157回の投稿は、1,339,956人にリーチし、167,765人のエンゲージを得ました。内27回の投稿は、保健省やWHOの情報を使った感染拡大予防など、新型コロナウイルス関連の内容でした。
- ターゲットとする人々の関心を捉えた、以下のような内容の投稿を実施しました。東ティモール内観光促進（17回）、料理や工芸(11回)、国際女性デー、ジェンダーに基づく暴力反対デー、東ティモール独立記念日などの記念日に関する内容（18回）、読み書きや算数に関するクイズやゲーム（22回）
- ユースグループを組織し活動を促進しました。メインキャラクターの「ラファエック君（わにの着ぐるみ）」とシャナナ・グスマン元大統領との対談、図書館での幼稚園児向け読み聞かせ、ラファエック制作を知るためのスタディツアーの運営、を実施しました。
- スポンサーシップによる広告収入として、およそ81万円（US\$ 8,108）を得ました。

・ラファエックWEBページ

- 昨年度末のWEBサイト開設から、月平均667人の訪問数を獲得しました。情報提供を最適化できるよう、さらに改善をすすめる予定です。

・スポンサーシップ（外部組織との連携）

- 本年度、ILO-R4D, UNICEF, UNDP, USDA/HATUTAN Project など、これまでにスポンサーシップ実績があるところに加え、HAMORIS Project, Water for Women Project, the European Union, GIZ, Empreza Di'ak, Mercy Corps and CHEMONICSなどが、新たな連携先として有力候補になりました。
- ラファエック社会事業チームは、いくつかの機関との契約を結ぶことができました。例えばUNDPからは、「Lafaek ba Komunitade」と「Lafaek Prima」へのコンテンツ掲載、GIZからは、Ai ba Futuru用のビルボードのデザインと印刷を依頼されました。また、アグロフォレストリー、栄養、市民社会へのサポートを促進するEUとの契約も確定しました。さらに、CARE東ティモール内の別事業（Water for women project、HAMORIS project.）とのスポンサーシップ連携も実現しています。

- ▶ 本年度、ラファエック社会事業チームは、学習雑誌、オンラインプラットフォーム、その他サービスにより、およそ2,600万円（US\$260,037）分の契約を確定しており、およそ1,993万円（US\$199,397）の収入を得ました。

モニタリング結果

全国 13 県の 272 の学校と周辺のコミュニティで、生徒、教師、保護者計 1,241 人（男性 691 人、女性 550 人）に評価インタビューを行いました。一方で、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、チーム人員の雇用が遅れ、全てのモニタリング評価活動を完了することはできず、前年比 8%減の評価インタビュー実施数となりました。このような中でも、今年度は、全国のコミュニティ、幼稚園と小学校の生徒や先生から、21 名分のサクセスストーリーを集めることができました。

本プロジェクトでは、フィールドオフィサー及び評価モニタリングチームのスタッフに、配布状況管理やモニタリングに使う、タブレット端末でのデータ収集方法について、定期的に研修を実施しています。また、オンラインでのデータ収集及びフィールドオフィサー業務の管理について、改善を続けています。フィールドスタッフは、学習雑誌「ラファエック」を直接配布する役割を担うことから、学習雑誌内の重要箇所をよく理解することが大切で、評価モニタリングチームのスタッフは、アンケート内のどの質問が最重要項目かを十分理解することが大切だからです。

農村地域の成人用ラファエック（「Lafaek ba Comunidade」）

評価モニタリングチームは全国 13 県で 200 箇所以上を訪問し、定期的に「Lafaek ba Comunidade」が配布されているコミュニティから、意見やフィードバックを収集しました。

全国の 223 世帯にインタビューを実施し、そのほとんどは、遠隔地に居住している世帯でした。インタビューに協力した保護者のうち、多くは女性（223 人中 155 人の 69.5%）で、男性は 30.5%（223 人中 68 人）でした。これは、403 世帯の親を対象とした前年度の、71%（403 人中 286 人）が女性、29%（403 人中 117 人）が男性、という結果に比べ僅かに低い割合です。

- ・ 94%の親が「Lafaek ba Comunidade」を受け取ったと答え、内 93%は年に三回、継続して受け取ったと答えました。
- ・ 子どもに読み聞かせをしているか尋ねると、65%の親がはいと答えました。（69.5%が女性、30.5%が男性でした）
- ・ 65.9%の親が、子どもも家で学習雑誌を読んでいる、と話しました。

教師用ラファエック（「Lafaek ba Manorin」）

評価モニタリングチームは、第一、第二、第三四半期で、全国 132 の幼稚園と小学校にて、138 名の教師（女性 47.8%、男性 52.2%）にインタビューを実施しました。

- ・ 97.1%（教師 138 人中 134 人）が「Lafaek ba Manorin」を受け取ったことが分かりました。
- ・ 99.3%の教師が、年三回、定期的にそれを受け取りました。
- ・ 96.4%の教師が、受け取った学習雑誌をまだ手元に残していると答えました。
- ・ 78.3%の教師が、受け取ったその学習雑誌を、スタッフに見せることができました。
- ・ 99.3%の教師が、学習雑誌の情報が、自分の教授方法、特に授業中のクラスマネジメントに役立ったと述べました。

小学3・4年生の子ども用ラファエック（「Lafaek Prima」）

評価モニタリングチームは、計 438 人の小学3・4年生に対しインタビューを行いました。この内 53.8%（232 人）が女子で、46.25%（206 人）は男子です。

- ・ 97.9%の生徒が、年三回「Lafaek Prima」を受け取りました。
- ・ 96.6%の生徒が、学習雑誌を家庭や学校で読む、または使いました。
- ・ 96.6%の生徒が、学習雑誌を家に持ち帰りよく使っていると話し、99.3%の生徒が、学習雑誌を受け取ったことで、学校がさらに楽しく、面白くなったと話しました。

幼稚園、小学1・2年生の子ども用ラファエック（「Lafaek Ki'ik」）

評価モニタリングチームは、計 442 人幼稚園生と小学1・2年生を対象に、インタビューを実施しました。この内 238 人（53.8%）が女子で 204 人（46.8%）が男子です。

- ・ 97.1%の生徒が、「Lafaek Ki'ik」を年三回受け取りました
- ・ 94.3%の生徒が、学習雑誌を家庭や学校で読む、または使いました。

・95.7%の生徒が、学習雑誌を家に持ち帰りよく使っていると話し、96.8%の生徒が、学習雑誌を受け取ったことで、学校がさらに楽しく、面白くなったと話しました。

事業の持続性

CARE は、ラファエック事業を持続可能な運営に移行させようと、大きく前進しています。ラフェックチームの一部として社会事業チームが設立され、ラフェックの長期ビジネス計画の運営を率いています。連携先のコンテンツをデザインし学習雑誌に掲載することが、スポンサーシップとの連携において収入を生み出すメカニズムの第一歩で、この先もプロジェクトの財政的持続化を可能にします。

今年度第2四半期には、CARE オーストラリアの支援により、オーストラリアのニューサウスウェールズ州シドニーを拠点とする投資管理組織 Koda に、およそ 3,700 万円 (AUD 500,000) を投資することができました。今後、CARE 及びラフェック社会事業チームは、Koda からの利子を事業運営のため有効活用していきたいと考えています。

他にも持続化のための取り組みとして、スポンサーコンテンツのデザイン、開発、雑誌掲載に加え、ラファエックチームが提供できるさらなるサービスの可能性の分析を行っています。この措置は、伝統的及びデジタルなアートやデザインの分野で、ラファエックが地元のサービス業者に対して競争力を得るためのものです。このアプローチは、中低予算の潜在的スポンサーに対応するためでもあります。利用可能なサービスが増えると、スポンサーにとって様々なサービスの価格帯が生まれるため、将来ラファエックが、中小企業のスポンサー、公営企業、民間企業、コミュニティ・サービス組織 (CSOs) などを引き寄せ、ラファエック事業と協業できることが期待されます。

非財務的な観点で持続化を保証するため、CARE はラファエック事業スタッフのプロジェクト実施に関わる技術的及び非技術的な面でのトレーニングと能力強化の努力を続けています。今後、プロジェクトチームのスタッフは多種多様な活動や他の組織との取り組みをすることでさらに見識を深め、実績、生産性、効率性の向上を期待されています。

問い合わせ先：

公益財団法人 ケア・インターナショナル ジャパン 担当：脇坂

<https://www.careintjp.org/index.html>

TEL: 03-5950-1335 FAX: 03-5950-1375 MAIL: camp@careintjp.org